

## 八章： 歴史教師の学歴

### The Educational Backgrounds of History Teachers

担当：山村向志（筑波大学大学院）

s1720081@s.tsukuba.ac.jp

#### I. 著者の紹介（所属、研究関心、略歴）



【著者】：Diane Ravitch（ダイアン・ラヴィッチ）

【所属】：ニューヨーク大学特任教授（教育学） 教育史家

【研究関心】：学校改革の歴史 教育政策 歴史教育

【略歴】：1975年にコロンビア大学大学院総合文化研究科にて、ニューヨーク市の公立学校史の研究で博士号を取得。その後は、コロンビア大学教員養成学部の歴史学・教育学の准教授となり、ニューヨーク市をフィールドにして学校改革の歴史について研究を行った。1990年代初頭には、ジョージ・H・W・ブッシュ大統領のもとで教育次官補としてスタンダード運動を推進し、テスト、アカウンタビリティ、学校選択に基づく教育改革を主導した。歴史教育に関しては、1985年～1987年にカリフォルニア州

(引用元：<http://dianeravitch.com/about-diane/>)

の歴史カリキュラム作成に携わっている。また、Chester E.Finn,Jr.らとともに、進歩主義的教育としての現在の社会科（歴史科目）の批判を行っている<sup>i</sup>。Ravitchの教育観は「学問的カリキュラムをすべての生徒に学習させ、長く受け継がれてきたアメリカ人としての教養を生徒に伝達することを学校の使命と考えている」<sup>ii</sup>と指摘されるように、「学問の本質＝内容を理解させる伝統的な学習を通して、共同体の一員として共有すべき価値観を獲得させる本質主義」<sup>iii</sup>の立場を取っている。日本語に翻訳されている著作物に、『教育による社会的正義の実現—アメリカの挑戦』（2011,東信堂）や、『アメリカ 間違いがまかり通っている時代—公立学校の企業型改革への批判と改革法』（2015,東信堂）などがある。

#### II.用語

- |                          |          |                     |         |
|--------------------------|----------|---------------------|---------|
| ・ educational background | 学歴       | ・ Major (minor)     | 専攻（副専攻） |
| ・ Out-of-field teaching  | 専門外分野の教育 | ・ Liberal education | 教養教育    |

#### III.ひとこと概要

前半部分ではNCES（全国教育統計センター）による量的調査を基に、公立中等教育学校（7～12学年）における歴史教師の学歴を紹介している。後半部分では歴史学を専攻したことのない教師が多い背景とその問題性について論じている。

#### IV. 議題

- ① 専門外の教科を教えることによって具体的にどのような問題が生じ得るのか。大学時代の専攻分野と学校での教授活動との間で関係性は見られるか。
- ② 「歴史学の十分な教育を受ける（pp.153 4段落）」とは歴史学を専攻していたか否かで語れるものか。Ravitchが指摘するように歴史教師を育成する教師教育者は歴史学を専攻する経験が必要なのか。

## V.本文の要約 (節タイトルの一部は山村が便宜上作成)

### (1) アメリカにおける歴史教師の学歴 pp.143-148

- ・アメリカの中学・高校の生徒の殆どが歴史を専攻していなかった教師に歴史を教えられている。
  - ・アメリカでは、自分の専門外の科目を教えることは珍しいことではない(数学、理科など)
- ⇒歴史はその中でも特に、専門外である教師が教えている割合が多い(科目の中では物理の次に多い)
- ・NCES(全国教育統計センター)は公立の中等教育学校(7～12学年)における専門外の教育に関して量的調査に基づく報告を行っている。

#### <専門外の教育を受けている生徒の割合>

- ・「歴史」と「世界史(world civilization)」を履修している公立学校7～12学年の53.9%の生徒は大学で少なくとも歴史学を副専攻していなかった教師に教えられている。

#### <担当科目と教師の学歴との比較>

- ・公立学校(7～12学年)の教師の17.4%が専門外である社会科を担当している。
- ⇒社会科教育学を専攻科目として含めないと、この数値はより高くなる。

#### <専門外の教育が行われる学校種>

- ・貧困層やマイノリティの多い学校に歴史を専門外とする教師が多く割り当てられるわけでもなく、歴史を先攻していた教師が富裕層の多い学校に集中しているわけでもない。(英語、数学、理科と比べて対照的)
- ⇒英語、数学、理科の分野では、裕福な生徒は貧しい生徒に比べて、より高い教育を受けた教師に出会うチャンスに恵まれている。しかし、歴史分野では、裕福な生徒と貧しい生徒は歴史を専門外とする教師に出会う確率はほぼ同じになる。

#### <専門外の教育と生徒の学業成績との関係>

- ・高い成績の生徒のクラスに比べて、低い成績の生徒のクラスの教師の方が、歴史を専門外とする人数の割合が若干高い。しかし、歴史は他の科目に比べて、このギャップは少ない。

#### <専門外の教育とクラスのタイプとの関係>

- ・他の科目では、進路別・能力別に高いクラスの生徒の方が低いクラスの生徒よりも高い教育を受けた教師を持つ傾向があったが、歴史科目においては、それらの生徒の間にほとんど差がなかった。

#### <専門外の教育が行われる学年段階>

- ・専門外の教師による歴史教育が最も行われるのが、歴史がほとんど教えられないことのない第12学年。最も低いのはアメリカ史が教えられる11学年。注意しなくてはならないのは、二番目に教えられる可能性が高い学年が、アメリカ史が通常教えられる第8学年であること。

<専門外の教育の州ごとの差>

- ・歴史が専門外の教師による教育は、州によって大きな差が見られる。
  - ・各州は独自に教育に関するスタンダードを定めているため、州の政策の違いが影響を与えている
- ⇒しかし、最も割合が低い州でさえも、歴史を教えている教師の32%～39%は歴史を専門外としており、その数字は物理学を除いた他の科目よりもはるかに大きい。

<調査データの再解釈>

- ・NCES の調査は、社会科教師だけに言及しており、自身を地理学や政治学、経済学など社会諸科学の教師であると回答した教師は除かれていた。これらの教員を含めると、社会科教員の学歴は向上する。
- ⇒それでも、社会科の教師の大多数が歴史学を専攻（副専攻）したことがなかった。7-12 学年の歴史を教える人のうち、52.6%が歴史学を専攻（もしくは副専攻）しておらず、高等学校で歴史と世界史を教えている教師の半数も同様であった。

**(2) なぜ専門外の科目を教えることが多いのか？ pp.148-153**

<歴史科目を専門外とする教師が多い理由>

- ・なぜ歴史分野では、物理学や化学の分野と同じくらいに、専門外の教師によって教えられることが多いのか？理科（科学）を専攻していた学生の場合は、高い給与が得られるため民間企業に就職する機会が多い。しかし、歴史学を専攻していた学生が教員にならない理由が同じなのかは疑わしい。
- ・その理由は...①誰でも歴史を教えることができるといった一般的な見解が存在していること
  - ・生徒の前に教科書を開かせる能力を超える特別なスキルは歴史を教える上で必要ないという認識がある
- ②州の認可条件において、歴史学よりも教育学や社会科教育学が有利なこと
  - ・歴史学の博士号習得候補者であっても、教育学を学んだ経歴がないために、高校の歴史教師になれないケースも。

⇒以上のような問題は、社会科において歴史科目がないがしろにされている状況の表れでもある。

<歴史科の地位が低下した背景～社会科の成立と教養教育、進歩主義教育の対立～>

- ・社会科はカリキュラムにおける歴史の優位性を破り、歴史を学ぶほど知的ではない生徒に現代社会の問題を教える試みの一環として20世紀の初頭に開発（=ハンプトン・インスティテュートの社会科）
- ・カリキュラム開発を行ったトマス・J・ジョーンズによる社会科委員会の報告書では、忘れ去られた文明やはるか昔の事件の研究から離れて、カリキュラムを現在の出来事に関するものに変えてしまった。
- ・1920年代、1930年代に起こった教養教育と進歩主義教育の対立において、歴史は成績が平均的な生徒にとって理解するにはあまりに遠すぎる出来事や問題を扱ったため、エリート主義的な科目として扱われることになった。

⇒歴史科は社会科の中で中心的な役割を担っていたが、「社会科と歴史科」ではなく、ただの「社会科」となってしまったことで、歴史はその優位な役割を失い、社会科の中の数ある領域の内一つに過ぎなくなった。

<歴史科の地位低下が問題視されない理由>

・社会科教育の教育家はカリキュラムにおける歴史の地位低下を以下の理由から問題としない。

- ①社会科で教えられている授業の殆どは既に歴史の授業である
- ②心配する歴史家は利己的で、自身の大学への入学者を求めている。
- ③歴史は保守的な分野であり、推進する者は暗黙裡に保守的課題を共有している
- ④生徒は自分の生活に関連するものだけに興味をもつが、歴史は今日の彼らの生活とかけ離れている

→もし、以上のような反応が正しく、社会科授業の殆どが歴史の授業であるのならば、多くの社会科教師が歴史学を専攻（副専攻）していないことはとても懸念すべきことである。

Ex) ・過去のことを殆ど知らない場合、過去の有意味性（relevance）を生徒に理解させられるか？

- ・（歴史学を知らず）教科書に依存している場合、歴史をいかにして生徒にとって生き生きとしたものに変えられるか

⇒歴史への対抗心の一部は、社会科分野の人の多くが歴史学の学位を持たないため歴史を社会科の中核として扱うべきという指摘に対して不快感を示している、という説明できるかもしれない

### **(3) 歴史教育のために検討すべき調査課題 pp.153-154**

<今後調査すべき課題>

- ・歴史を専攻したことのない歴史教師がなぜ多いのかを理解しようとするならば、さらに調査を必要とする課題が二つある。

⇒①将来の歴史教師と社会科教師に期待されること（例えば、大学の学位、資格証明、試験）を決定する州の政策を分析する必要がある。

- ・どの州が歴史学を専攻（副専攻）したことがない社会科教師に免許を与えているのか

②社会科教育学を教える人々（教師教育者）の学歴を調べ、彼らがどれくらい歴史学の教育を受けているのか特定する必要がある。

- ・社会科教師の養成に携わる大学教授も、社会科教師と同様に歴史学の十分な教育を受けるべき

<歴史学を専攻した教師が少ないことを問題視する理由>

- ・問題に焦点を当てる 1 つの理由は、それが解決できること。この問題は各州の政策によって生み出されたものであり、各州の政策によって解決されうる問題である。

**【註】**

i) Diane Ravitch (2003) “A Brief History of Social studies,” James Leming, Lucien Ellington, Kathleen Porter (Ed), *Where Did Social Studies Go Wrong?* Thomas B. Fordham Foundation, pp.1-5

ii) 宮本健一郎 (2008) 「進歩主義教育への評価とラヴィッチの歴史観」ダイアン・ラヴィッチ著, 末藤美津子・宮本健市 郎・佐藤隆之訳 『学校改革論争の 100 年ー20 世紀アメリカ教育史ー』 東信堂,p.601

iii) 後藤賢次郎 (2011) 「社会科の思想的根拠の新展開 — 本質主義との対立的議論を克服した『進歩主義』概念 —」, 『教育学研究ジャーナル』,第 9 号, 中国四国教育学会,p.1

**【参考文献】** (Diane Ravitch の略歴について)

・ about diane <http://dianeravitch.com/about-diane/> 最終閲覧日 2018/06/09

・ダイアン・ラヴィッチ著, 末藤美津子・宮本健市 郎・佐藤隆之訳 (2008) 『学校改革論争の 100 年ー20 世紀アメリカ教育史ー』 東信堂